

此の寮よりの児

(平成二十八年 度寮歌)

小松遼貴君 作歌・作曲

一字に集いし青二才共に三途の川は未だ遠く

四の五の言わずも六華で過ごさば北斗七星背を照らす

八紘辿りて九遠を巡らん八紘辿りて九遠を巡らん十色の明日へといざやいざ

抒

把

究

北の都に若人が

大きな理想抱え来て

明ける月夜に継がれる人情

飽くまで語り前途見遣れ

寮清ければ我等住まぬ

恵みの雨も降りしきり

迪を呑み込む時化呼べど

帆を張れば平らぐ濤燦然と

確と舵取れ其の身空

我等の寮得たるが如く

寮で相撃つ竜と虎

歌い響かす己が大志

琢磨し君と此処寮を以て

咲きつ根張り胸を反れ

我等と寮となれこの日々よ